

2016春闘妥結にあたっての見解

JR東労組バス関東本部は、2016JR総連春闘の一翼を担うべく「基本給一律6,000円の引き上げ（定昇を含まない）と契約社員Bの基本日額を一律300円引き上げ。定期昇給の実施と第二基本給の廃止。65歳定年制の導入。55歳以上の基本給減額制度廃止」を求めることと同時に、営業利益が過去最高益という好業績をベースに、2016年度夏季手当について「基準内賃金3.0ヶ月及び契約社員Bへ一律5万円加算」の申し入れを2月26日に行い、本日まで組合員・家族と共に闘い抜いてきました。

会社は団体交渉で、創立以来の史上最高益を示し、「組合員の誠意ある努力のもとで好業績となっており、申し入れの主旨は十分理解している」としつつも、「人事賃金制度を意識した議論を見据えて、旧制度社員と新制度社員のベア額に差を付ける考え方である」と強い姿勢に終始しました。

JRバス関東本部は「ベアの性質は生活向上分、物価上昇分、業績還元分、他企業との足並みであり、人事賃金制度の議論を16春闘や夏季手当の交渉に持ち込むことは反対である。ベアや夏季手当交渉と人事賃金制度の課題は分けて考えるべきである」と主張し、議論は真っ向から対立しました。私たちは16春闘の対立点と今後の闘いの意思統一を図るため、組合員と共に「分会代表者会議」「春のたたかい総決起集会」を開催、さらに「春のたたかい緊急集会」を東京支店塩浜会議室で計5回開催し、一律ベア要求を行っている根拠と「賃金とは何か」について学習し、議論を重ねてきました。また全組合員対象に行った「格差ベア」アンケートでの反対83%の結果を背景にして、各分会、支部、地本、中央本部からの物心両面にわたる激励を受けながら「3年連続の一律ベア実施」に向けて闘い抜いてきました。その結果、会社から「ベア一律500円」の回答を引き出し、夏季手当では社員2.76ヶ月、契約社員A2.15ヶ月、平成18年10月以降採用の社員1万円加算、契約社員B・臨時雇用員2万円加算を確認して、本日席上妥結しました。

この結果は16春闘の集中回答日（3月16日）以降、ベア1,500円で妥結したトヨタを皮切りに、大手企業の「低額要求」「低額回答」という春闘相場がつくり出されたなかで、さらには安倍政権による「官民対話」という春闘への政治介入による春闘破壊のなかで3年連続の一律ベアを勝ち取ったことは大きな成果です。それを実現したことは、2000年から始まったバス業界の規制緩和以降、JR東労組組合員が職場から安全確立と労働条件向上実現の闘いを着実に積み上げてきた結果です。今こそ16春闘の成果と課題を明確にして、17春闘へ繋げる議論を職場から巻き起こそう！

安全・健康・働きがいのあるバス業界と職場を確立しよう！

一方で日本のバス業界は1月15日に発生した軽井沢スキーバス事故により、世間の信頼を大きく失墜させました。企業が利益のために規制を破ってしまうことは人命を失う原因をつくり出します。人を大切にしない企業は人に起因する事故を必ず発生させてしまうのです。私たちは職場で「社会は何のために法律や規制をつくっているのか」を真剣に考えて、安倍政権が推し進める労働諸法制改悪や、行き過ぎた規制緩和に抗して、安全再確立のたたかいを粘り強くつくりださなくてはなりません。そして、たしろかおる参議院議員と共に子どもや若者が安全で安心して利用できるバス業界の確立に向けて、もう一度職場から立ちあがろう！

2016春闘は「一律の賃金引き上げ」が重要な課題であり、JRバス関東本部は「長期化もやむなし」と判断し不退転の決意で挑んだため、過去に例を見ない長期の交渉となりました。この間の分会、支部、地本、中央本部からの支援激励に感謝致します。そして、最後まで交渉団を支えてくれた組合員・家族の皆さんに御礼を申し上げJRバス関東本部の見解とします。

2016年5月19日
東日本旅客鉄道労働組合
JRバス関東本部常任委員会